



2011年5月30日15時
独立行政法人 放射線医学総合研究所

内部被ばくの可能性がある原発作業員2名の受け入れ

独立行政法人 放射線医学総合研究所(理事長：米倉 義晴)

放射線医学総合研究所（理事長 米倉義晴、以下、放医研）は、平成23年5月30日午前11時頃、福島第一原子力発電所の作業中に、内部被ばくを受けた可能性のある作業員2名を受け入れました。

この2名は、日本原子力研究開発機構による評価作業の結果、甲状腺の体内放射線エネルギー（ヨウ素131）が高いことが確認されたため、念のため放医研で精密検査を行うことになったものです。

2名とも意識は清明で、歩行等に問題はなく、現在、放医研の緊急被ばく医療施設において、精密な検査を行っています。

本件に関しまして、本日午後18時より、放医研において記者会見を行います。